

医療の変化と看護

著者	深澤 佳代子
雑誌名	NICかわらばん
巻	341
発行年	2008-09-06
URL	http://hdl.handle.net/10631/782

看護大通信

48



新潟県立看護大学

学生部長 深澤佳代子

皆さんはかかりつけの病院をどのような基準で選んでいるのでしょうか。名医がいる、評判がいい、自宅から近い、たまたま紹介されたから、など理由はそれぞれだと思います。病院の外来にはさまざまな掲示がされています。例えば、患者さんからの投書の内容やそれに対する回答などが目立つところに表示されている病院もあります。その掲示物をよく見ていただきますと、病院機能評価結果というものが掲示されている病院があり

医療の変化と看護

ます。病院機能評価を受けていなくても優秀な病院はたくさんあるのです。日本病院機能評価機構という機関に申請して厳正な評価を受け、基準をクリアすると優秀な病院としてお墨付きを与えられます。評価項目には

では看護の専門性をアピールするのは困難でした。しかし、昨

年、医療情報提供制度が創設されたことに伴い、今年の四月から専門看護師や認定看護師について種類や配置人数、活動状況などがパンフレットなどでの広告が可能になりました。医療安全管理、感染予防、褥瘡^{じよくそう}予防や糖尿病管理など、あげたらきりがありませんが、看護職は専門的なケアを提供するために日々の業務の合間

だきますと、看護ケアに関する内容がとても充実してきており、驚くほど多くの情報を得ることができると思います。

医療は日々大きく変化してきます。看護職も世の中の流れに追いつけ追い越せと日々頑張っています。皆さんにもぜひ、「いい看護をしている」という理由で病院を選んでいただきたいものです。

が、看護職は専門的なケアを提供するために日々の業務の合間に研修や教育を受けて資格をとるなど、弛まぬ努力を続けています。病院のホームページを開いていた

本学に在学するほとんどの学生は看護職を目指して学んでいます。私たち教員は、「いい看護をしている」病院や施設の核となる看護の人材を育成するために日々教育に励んでいます。



設の核となる看護の人材を育成するために日々教育に励んでいます。